

授 業 科 目 名	関係法規・制度		
担 当 者 名	北原 莊一郎		
科 目 コ ー ド	2130012	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	美容師必修
授業の概要と方法	教科書は日本理容美容センター出版の「関係法規・制度」及び「美容師関係法令集」を使用し、下記の授業計画に沿って講義を行う。 この授業は、履修学生が美容師免許を取得し、美容業務に就き、また、将来に独立して美容所を開設する場合に必要な法令について美容師法を中心に、関連する衛生法規を修得することを目的に行う。		
授業の到達目標	履修学生の最終目標である「美容師試験」（いわゆる国家試験）に合格するための法的知識を修得させることであり、そのために美容師法や関連法令の内容を体系的に理解し、確実に国家試験の「関係法規・制度」の正答率 60%以上の得点を獲得する実力を身に付けさせることを到達目標とする。		
授 業 計 画			
1.	法制度の概要（社会生活における法の役割、法の形式）		
2.	法制度の概要（衛生法規の概要、附属法令、衛生行政の意義と歴史）		
3.	衛生行政の概要（生活衛生行政の内容、衛生行政を担う行政機関）		
4.	美容師法（目的、定義）		
5.	美容師法（人に関する規定；養成施設入所資格、試験）		
6.	人に関する規定（免許と登録）		
7.	人に関する規定（美容師の義務、業務停止、免許取消し）		
8.	人に関する規定（管理美容師）施設に関する規定（概説、開設届、届出義務者）		
9.	施設に関する規定（確認検査、変更届、地位継承、開設者衛生措置、業務場所）		
10.	人に関する規定・施設に関する規定のまとめ		
11.	立入検査、違反者に対する行政処分、行政手続法、行政不服審査法		
12.	罰則、まとめ		
13.	関連法規、全体フォローアップ		
14.	参考資料、全体フォローアップ		
15.	全体フォローアップ		
成 績 評 価 の 方 法 〔評価項目と割合〕			
定期試験			
100%			
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・使用するテキスト【関係法規・制度】は、約 140 ページの内容であるので準備学習として、授業前に毎回 9 ページ程度を読んでおくこと。 ・また、授業を通じて履修学生が修得すべき重要な個所は反復して指示していく。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
関係法規・制度		公益社団法人 日本理容美容教育センター	
美容師法関係法令集		公益社団法人 日本理容美容教育センター	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
・講義中に適宜、法規改正、その他資料を配布する。			
そ の 他（受講生への要望等）			
・授業での法律や使われる語句は、履修学生にとってこれまで経験したことがないものであるため、十分な予習と、授業内容をその都度理解していく努力の積み重ねが大切です。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	授業終了後 15 分間は小倉北区キャンパス 2 号館 4 階非常勤講師室にて待機。 質問等対応可。		

授 業 科 目 名	衛生管理技術		
担 当 者 名	村岡 敬治		
科 目 コ ー ド	2130013	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	美容師必修
授業の概要と方法	<p>下記の章に基づき、国家試験に役立てる講義をする。</p> <p>国家試験のためには、はじめは確りした基礎知識が必要になります。各章の理解を十分に深めるために小試験を7回は実施します。小試験があった日でも授業時間の20分は練習問題を毎回行います。予習・復習は必修条件です。基礎的な説明についてはまとめのコピーを配布します。特に、消毒剤の作り方の希釈計算法には、完全に理解して頂くように力を入れます。毎回、20分の練習問題を実施していることは、予習・復習をすることに習慣づけられ重要としている。</p>		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より積極的に取り組む態度を養うための方法を取り、予習・復習を習慣づける。</li> <li>・小試験は、7回実施する。また、授業後、練習問題の解答を学生自身に毎回20分かけて発表して頂き、それに関わる質問形式を取り、目的に合う理解度に到達できるようになること。</li> </ul>		
授 業 計 画			
1.	第1章 消毒法総論		
2.	第1節 消毒とは	1.消毒法の歴史/2.病原微生物と非病原微生物	
3.		3.病原微生物の種類と構造/4.消毒の原理	
4.	第2節 消毒の意義	1.汚染、感染、発病と消毒の意義	
5.		2.消毒、滅菌、殺菌、防腐の定義	
6.	第3節 理容・美容の業務と消毒との関係	1.消毒に関連のある法の規定	
7.		2.消毒をおこなった場合の危険と理容師・美容師の責任	
8.	第4節 毒法と適用上の注意	1.消毒法の種類	
9.		2.消毒（滅菌）に必要な条件/3.病原微生物の抵抗力	
10.		4.消毒薬・消毒液の使用、保存上の注意	
11.	第2章 消毒法各論		
12.	第1節 理学的消毒法（殺菌法）	1.紫外線/2.煮沸/3.蒸気など	
13.	第2節 化学的消毒法（殺菌法）	1.アルコール/2.塩素剤など	
14.	第3節	すぐれた消毒法とその実施上の注意	
15.	第3章 消毒法実習		
	第1節	各消毒薬	
	第2節	理容所・美容所の消毒の実際など	
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	小テスト	授業への取り組み姿勢	レポート
80%	10%	5%	5%
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・各回の講義について、事後学習などについて連絡をします。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
衛生管理		公益社団法人 日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等			
特になし			
そ の 他（受講生への要望等）			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価については、授業への取り組み姿勢、定期試験および小テスト（7回）をも含め評価する。</li> <li>・講義へは、配布した資料及びテキストを必ず持参すること。</li> </ul>			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
keijimura@jcom.home.ne.jp	講義終了後の質問等対応可。		

授 業 科 目 名	公衆衛生学		
担 当 者 名	村岡 敬治		
科 目 コ ー ド	2130031	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	美容師必修
授業の概要と方法	<p>下記の章に基づき、国家試験に役立てる講義をする。</p> <p>国家試験のためには、はじめは確りした基礎知識が必要になります。各章を十分に理解するため小試験を7回は実施します。小試験があった日でも授業時間の20分は練習問題を毎回実施。一年生には、確りした思考力を身に着けることを主に学ぶ教育をしているが、絶えず根気よく繰り返す習慣をつけさせることが必要です。まず予習・復習は必修条件です。基礎的な説明についてはまとめのコピーを配布。毎回、20分の練習問題を実施していることは、予習・復習することに習慣づけられ重要としている。</p>		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的にやれる態度を養うための方法を取り、予習・復習を習慣づける。</li> <li>・小試験は、7回実施。また、授業後、練習問題の解答を学生さん自身に毎回20分かけて発表して頂き、その解答に対し質問形式をとるが終了後には、ほぼ解答ができるようになる。</li> </ul>		
授 業 計 画			
1.	第1章 公衆衛生の概要		
	第1節 公衆衛生の意義と課題		
2.	第2節 公衆衛生発展の歴史		
	1.欧米の公衆衛生の歩み/2.わが国の公衆衛生の歩み		
3.	第3節 公衆衛生の具体的課題と領域		
4.	1.出生率の低下		
5.	2.死亡率の低下		
6.	3.乳児死亡率の低下		
7.	4.平均寿命の延び		
7.	第4節 理容師・美容師と公衆衛生		
8.	1.歴史の中の理容師・美容師と公衆衛生		
9.	2.公衆衛生と理容師・美容師		
10.	第5節 保健所と理容業・美容師		
11.	第2章 医学と保健		
12.	第1節 予防医学		
13.	第2節 疫学の重要性と予防衛生の増進		
14.	第3節 保健 1.母子保健/2.成人・高齢者保健など		
15.	第1章 環境衛生		
	第2章 理容所・美容所の環境衛生		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	小テスト	授業への取り組み姿勢	レポート
80%	10%	5%	5%
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
・各回の講義について、事後学習などについて連絡をします。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
衛生管理		公益社団法人 日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等			
特になし			
そ の 他 (受講生への要望等)			
※成績評価については、授業への取り組み姿勢、定期試験および小テスト(7回)も含め評価する。			
・講義へは、配布した資料及びテキストを必ず持参すること。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
keijimura@jcom.home.ne.jp	講義終了後の質問等対応可。		

授 業 科 目 名	感染症学		
担 当 者 名	村岡 敬治		
科 目 コ ー ド	2130014	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	美容師必修
授業の概要と方法	<p>下記の章に基づき講義を実施する。</p> <p>国家試験対策に役立てる。国家試験のためには、はじめは確りした基礎知識が必要になります。各章の理解を十分に深めるために小試験を7回は実施します。小試験があった日でも授業時間の20分は練習問題を毎回行います。予習・復習は必修条件です。基礎的な説明についてはまとめのコピーを配布します。法定上の感染症分類（一類、二類、三類、四類、5類感染症など）については、徹底して記憶していただき、病原微生物の細胞、内部構造及び本体についての理解度が増すでしょう。</p>		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習、復習の習慣づけ及び知識の定着を図る。</li> <li>・小試験は7回実施する。また、授業後に練習問題の解答を受講生に毎回20分かけて発表して頂き、それについて質問時間を取り、討論を行う。</li> <li>・2月には特別演習期間が設けられているので、3教科を徹底的に消化する。最後の3教科の試験で学習内容の定着を図る。</li> </ul>		
授 業 計 画			
1.	第1章 感染症の知識		
2.	第1節 人と感染症 1.感染症と人間の社会生活/2.人と感染症の闘い		
3.	3.感染症の種類		
4.	第2節 病原微生物 1.微生物の種類/2.微生物の形と大きさ/3.微生物の構造		
5.	4.微生物の生活現象/5.微生物の増殖と環境の影響		
6.	第3節 感染症の予防 1.微生物の病原性と人体の感受性		
7.	2.汚染、感染および発病/3.常在細菌叢/4.免疫と予防接種		
8.	5.感染症発生の原因/6.感染症予防の3原則		
9.	第2章 感染症の概要		
10.	第1節 理容・美容と感染症		
11.	1.一類感染症		
12.	2.二類感染症・三類感染症		
13.	3.四類感染症・五類感染症/4.新型インフルエンザ等感染症		
14.	5.予防接種で規定されている感染症		
15.	6.結核など		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	小テスト	授業への取り組み姿勢	レポート
80%	10%	5%	5%
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・各回の講義について、事後学習などについて連絡をします。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
衛生管理		公益社団法人 日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等			
特になし			
そ の 他（受講生への要望等）			
<p>※成績評価については、授業への取り組み姿勢、定期試験および小テスト（7回）をも含め評価する。</p> <p>・講義へは、配布した資料及びテキストを必ず持参すること。</p>			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
keijimura@jcom.home.ne.jp	講義終了後の質問等対応可。		

授 業 科 目 名	皮膚科学 I		
担 当 者 名	船越 啓右		
科 目 コ ー ド	2130015	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	美容師必修
授業の概要と方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皮膚科の疾患の概要を学ぶ。</li> <li>・目標は、この知識をもって美容術にあたる事が出来ること。</li> </ul>		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美容協会が望む美容師としての知識に到達すること。</li> <li>・すなわち国家試験に合格する最低の知識を会得すること。</li> </ul>		
授 業 計 画			
1.	皮膚の構造-1	-皮膚の表面の構造、断面の構造（表皮・真皮・皮下組織）	
2.	皮膚の構造-2	-皮膚と真皮の境、真皮、皮下組織、皮膚の部位別相違	
3.	皮膚付属器官の構造	-1 毛と脂腺	
4.	皮膚付属器官の構造	-2 汗腺と爪の構造	
5.	循環系と神経系	-皮膚の血管、皮膚のリンパ管、皮膚の神経	
6.	皮膚と付属器の生理	-1 皮膚の対外保護作用、体温調節作用	
7.	皮膚と付属器の生理	-2 皮膚の知覚と反射、分泌反射作用	
8.	皮膚と付属器の生理	-3 皮膚の呼吸作用、吸収作用、貯蔵作用	
9.	皮膚と付属器の生理	-4 免疫・解毒・排泄作用、ビタミン D～毛と爪の働き	
10.	皮膚と付属器の生理機能	表情作用	
11.	皮膚と付属器の機能	-皮膚の水分と皮脂	
12.	皮膚と付属器のホルモン	-皮膚に作用する各種のホルモン	
13.	皮膚と付属器の再生作用	-皮膚の再生について	
14.	皮膚と毛	-毛のはたらき	
15.	皮膚と爪	-爪のはたらき	
成績評価の方法 〔評価項目と割合〕			
定期試験			
100%			
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義前に次回の講義範囲を伝える。</li> <li>・プリントのみならず必ず教科書持参のこと。</li> <li>・予習復習で医学用語に慣れるようにする。</li> </ul>			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
理容・美容保健		公益社団法人 日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等			
※毎回、覚えやすくしたプリントを配布する。			
そ の 他（受講生への要望等）			
・国家試験合格を目標に勉強することである。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	講義終了後の質問等対応可。		

授 業 科 目 名	皮膚科学Ⅱ		
担 当 者 名	船越 啓右		
科 目 コ ー ド	2130016	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	美容師必修
授業の概要と方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皮膚科の疾患の概要を学ぶ。</li> <li>・目標は、この知識をもって美容術にあたる事が出来ること。</li> </ul>		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美容協会が望む美容師としての知識に到達すること。</li> <li>・国家試験に合格する最低の知識を会得すること。</li> </ul>		
授 業 計 画			
1.	皮膚と全身状態	-皮膚の状態と全身状態の関係	
2.	皮膚と栄養	-栄養状態と皮膚	
3.	皮膚とホルモン	-皮膚にかかわるホルモン	
4.	皮膚と付属器の疾患	-1 皮膚の異常とその種類	
5.	皮膚と付属器の原因	-2 原因の種類	
6.	皮膚と付属器の疾患	-3 皮膚炎と湿疹・薬疹、口唇の疾患	
7.	皮膚と付属器の疾患	-4 温熱と寒冷による皮膚障害	
8.	皮膚と付属器の疾患	-5 皮膚の角化異常と皮膚の色素異常	
9.	皮膚の障害	-皮膚にみる静脈瘤	
10.	皮膚の疾患-1	-分泌異常と疾患	
11.	皮膚の疾患-2	-化膿菌による疾患	
12.	皮膚の疾患-3	-ウイルスによる疾患の種類と症状	
13.	皮膚と真菌	-皮膚の真菌性疾患の種類と症状	
14.	動物性皮膚疾患	-皮膚に寄生する動物（ノミ、ダニなど）	
15.	皮膚の腫瘍	-皮膚の悪性腫瘍と良性腫瘍	
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験			
100%			
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義前に次回の講義範囲を伝える。</li> <li>・プリントのみならず必ず教科書持参のこと。</li> <li>・予習復習で医学用語に慣れるようにする。</li> </ul>			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
理容・美容保健		公益社団法人 日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等			
※毎回、覚えやすくしたプリントを配布する。			
そ の 他（受講生への要望等）			
・国家試験合格を目標に勉強することである。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	講義終了後の質問等対応可。		

授 業 科 目 名	解剖学		
担 当 者 名	船越 啓右		
科 目 コ ー ド	2130017	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	美容師必修
授業の概要と方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美容協会指定の教科書（理容・美容保健）を使用し、わかりやすくするためにプリントを配布する。</li> <li>・身体各部の医学的名称を主に学ぶ。</li> </ul>		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体各部の名称を知り、身体の構成を学ぶ。</li> <li>・協会が指定する目標である国家試験に合格する知識をつける。</li> </ul>		
授 業 計 画			
1.	身体各部の名称-1	-頭部、顔面の医学的名称を知る	
2.	身体各部の名称-2	-上肢、下肢の医学的名称を知る	
3.	細胞と体液-1	-身体各部の細胞の名称	
4.	細胞と体液-2	-身体内の体液の名称	
5.	骨格系-1	-全身の骨の名称	
6.	骨格系-2	-骨の種類とその特徴	
7.	筋系-1	-全身の筋の名称と構成	
8.	筋系-2	-顔面の筋の名称	
9.	筋系-3	-顔面筋以外の筋の名称	
10.	神経系-1	-中枢神経の名称	
11.	神経系-2	-末梢神経の名称	
12.	感覚器系-1	-視覚、聴覚を構成するものの名称	
13.	感覚器系-2	-味覚、嗅覚、皮膚感覚の部位と名称	
14.	循環器系-1	-血液細胞の名称と心臓の名称	
15.	循環器系-2	-リンパの循環路とその名称	
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
定期試験			
100%			
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書とプリントを読み予習をすること。</li> <li>・予習復習で医学用語に慣れるようにすること。</li> </ul>			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
理容・美容保健		公益社団法人 日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等			
そ の 他（受講生への要望等）			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験合格を目標に勉強することである。</li> </ul>			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	講義終了後の質問等対応可。		

授 業 科 目 名	生理学		
担 当 者 名	船越 啓右		
科 目 コ ー ド	2130018	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	美容師必修
授業の概要と方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「理容・美容保健」の生理学の分野を学ぶ。</li> <li>・身体各部の生理学的働きを知る。健康な身体の状態を学ぶ。</li> </ul>		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人体の各部の働きを学び、美容協会が指定する目標に到達すること。</li> </ul>		
授 業 計 画			
1.	人体各部の働き-1	-頭部、顔面などの皮膚の働き	
2.	人体各部の働き-2	-上肢、下肢などの皮膚の働き	
3.	細胞と体液-1	-身体各部の細胞の働き	
4.	細胞と体液-2	-血液細胞の働き	
5.	骨格系-1	-骨の種類による働き	
6.	骨格系-2	-骨の働きと保健	
7.	筋系-1	-顔の筋の働きと保健	
8.	筋系-2	-顔面以外の筋の働きと保健	
9.	筋系-3	-顔面の表情とあらかず筋の働き方	
10.	神経系-1	-中枢神経の働きと身体	
11.	神経系-2	-末梢神経の働きと身体	
12.	感覚器系-1	-視覚、聴覚などの働き	
13.	感覚器系-2	-味覚、嗅覚、皮膚感覚について	
14.	循環器系-1	-血液の流れと心臓の働き	
15.	循環器系-2	-リンパの循環と身体	
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
定期試験			
100%			
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書とプリントを読み予習をすること。</li> <li>・予習復習で医学用語に慣れるようにすること。</li> </ul>			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
理容・美容保健		公益社団法人 日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等			
そ の 他（受講生への要望等）			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験合格を目標に勉強することである。</li> </ul>			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	講義終了後の質問等対応可。		



授 業 科 目 名	美容の物理		
担 当 者 名	田尾 悟		
科 目 コ ー ド	2130019	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	美容師必修
授業の概要と方法	・美容の技術や作業に関係する物理的原理を理解し、その具体的活用や注意すべきことを学習する。		
授業の到達目標	「美容師養成施設の教科課程の基準」の実施方針に準拠し、力・熱・光・電気の4項目を軸にして、物理現象の基礎的理解をめざす。さらに、美容の技術向上や機器操作の習得にはそれらの内容が必須の条件であることを納得させる内容としている。		
授 業 計 画			
1.	力とそのはたらき…力のつり合いやモーメント、摩擦、仕事とエネルギー		
2.	刃物と力…力による物体の変形、刃による切断作用等について		
3.	温度と熱…温度計、熱平衡、比熱、熱容量について		
4.	熱の移動…熱の伝わり方、保温等について		
5.	物質の状態の変化…物質の三態、物質の状態の変化について		
6.	光について…光の進み方、直進と影、反射と屈折について		
7.	光の色と明るさ…光の色、物体の色、光源と明るさについて		
8.	電気の基本性質…静電気、電流と電気抵抗について		
9.	電流の化学作用…電流の化学作用、電池について		
10.	電気のエネルギー…電流と熱、電力の電力量について		
11.	電流と磁界…磁石、電流の磁気作用、モーター変圧器について		
12.	美容と電気機器…電流の作用と電気機器、美容の電気機器について		
13.	電気と電気機器の使用上の注意…電気と法規、使用上の注意について		
14.	演習と実験		
15.	まとめ		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
定期試験	授業への取組み姿勢		
80%	20%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・講義中に次回の講義予定を連絡するので、該当箇所の予習及び復習を行うこと。 ・事前に練習問題を解いておくこと。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
物理・化学		公益社団法人 日本理容美容教育センター	
物理・化学 ワークブック		公益社団法人 日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等			
・プリントを配布します。(約40ページ分)			
そ の 他 (受講生への要望等)			
・講義前に、過去問題及びワークブックの予習、復習をしておくこと。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
080-1700-9314 (ショートメールのみ対応)	講義終了後の質問等対応可。		

授 業 科 目 名	美容の化学		
担 当 者 名	木田 智美		
科 目 コ ー ド	2130020	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	美容師必修
授業の概要と方法	パーマや染毛の化学的な基礎を理解することで、美容師に必要な基礎知識を身に付けてもらう。授業は講義、板書を中心とし、教科書に沿って進めていく。		
授業の到達目標	・美容師に必要な化学の基礎知識を修得し、国家試験に合格することを目標とする。		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション：なぜ化学を学ぶのか		
2.	物質の構造(1)：物質の構成		
3.	物質の構造(2)：化学結合		
4.	物質の構造(3)：物質の量と変化		
5.	溶液とコロイド(1)：溶液とその性質		
6.	溶液とコロイド(2)：コロイド		
7.	酸と塩基と塩(1)：酸と塩基の性質		
8.	酸と塩基と塩(2)：中和反応と塩		
9.	酸化・還元反応		
10.	有機化合物(1)：低分子化合物		
11.	有機化合物(2)：官能基のついた炭化水素		
12.	有機化合物(3)：官能基どうしが結合した炭化水素		
13.	有機化合物(4)：高分子化合物 天然高分子化合物		
14.	有機化合物(5)：高分子化合物 合成高分子化合物		
15.	まとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	授業への取組み姿勢		
70%	30%		
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
・教科書について、次回の講義内容の箇所を読んでおくこと。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
物理・化学		公益社団法人 日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等			
特になし			
そ の 他 (受講生への要望等)			
・国家試験科目です。予習、復習をして分からないことは質問をしてください。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
tomo-ganba.5.5.5@softbank.ne.jp		講義終了後の質問等対応可。	

授 業 科 目 名	香粧品化学		
担 当 者 名	木田 智美		
科 目 コ ー ド	2130021	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	美容師必修
授業の概要と方法	美容師として必要な香粧品化学の基礎勅使を学んでもらう。 授業は講義、板書を中心とし、教科書に沿って進めていく。		
授業の到達目標	・テキストの内容を全て終了させ、美容師国家試験に合格すること。		
授 業 計 画			
1.	香粧品概論		
2.	香 粧 品 原 料 (1) : 水性・油性原料、界面活性剤、高分子化合物		
3.	香 粧 品 原 料 (2) : 色材、香料、その他の配合成分		
4.	基 礎 香 粧 品 (1) : 皮膚洗浄用香粧品、化粧水		
5.	基 礎 香 粧 品 (2) : クリーム、乳液、その他の基礎香粧品		
6.	メイクアップ用香粧品 (1) : メイクアップ用香粧品の種類と剤型		
7.	メイクアップ用香粧品 (2) : ベースメイクアップ香粧品、ポイントメイクアップ香粧品		
8.	頭皮、毛髪用香粧品 (1) : 頭皮や毛髪の性状、シャンプー剤		
9.	頭皮、毛髪用香粧品 (2) : スタイル剤、パーマ剤、ウェーブ剤		
10.	頭皮、毛髪用香粧品 (3) : 染毛剤、育毛剤		
11.	そ の 他 の 香 粧 品 (1) : 芳香製品、サンケア製品		
12.	そ の 他 の 香 粧 品 (2) : 美白用香粧品、制汗、防臭剤、ニキビ用香粧品		
13.	香粧品の取り扱い (1) : 香粧品の安定性と取り扱い上の注意		
14.	香粧品の取り扱い (2) : 香粧品と安全性		
15.	まとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	小テスト		
80%	20%		
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
・教科書について、次回の講義内容の箇所を読んでおくこと。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
物理・化学		公益社団法人 日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等			
特になし			
そ の 他 (受講生への要望等)			
・国家試験科目です。予習、復習をして分からないことは質問をしてください。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
tomo-ganba.5.5.5@softbank.ne.jp	講義終了後の質問等対応可。		

授 業 科 目 名	美容文化論 I		
担 当 者 名	恩田 美智子		
科 目 コ ー ド	2130037	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	必修 美容師必修
授業の概要と方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美容業とかかわる文化が、古代からつながる各時代の流れの中で、いかに発生してきたかを捉え、時代の経過に沿って移ろう様を表しています。</li> <li>本講義では美容師として必要な美的感覚を身につけ、芸術的な表現力と鑑賞力を養い、豊かな感性によるすぐれた表現力を培うことを目指す。</li> <li>・美術館また展示会などの体験学習等も行う。</li> <li>・ヘアスタイルやファッションの歴史の CD や DVD など視聴する。</li> </ul>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の美容ファッション文化史を学ぶことで芸術的な表現力と鑑賞力を養う。</li> <li>2. さまざまな髪形、化粧、服装の変換流行を学び、流行のメカニズムを知り、時代を読みデザインを起こすためのヒントにする。</li> <li>3. ヘアスタイルが独立して存在するものではなく、服装などとのトータルバランスが不可欠でありその意味で服装が、時代の波の中でどのように変遷してきたかを学び、より時代とファッションのかかわりを理解する。</li> </ol>		
授 業 計 画			
1.	総論 「理容」「美容」の語義 / 顔を考える		
2.	総論 「化粧」の意味 / 文化的記号としての髪の毛		
3.	日本の美容業の歴史 美容業の発生、江戸時代の美容業、近代の美容、現代の美容業		
4.	ファッション文化史 [日本編] 縄文・弥生・古墳時代		
5.	ファッション文化史 [日本編] 古代 (飛鳥・奈良・平安時代前期)		
6.	ファッション文化史 [日本編] 中世 (平安末期・鎌倉・室町時代・戦国時代)		
7.	ファッション文化史 [日本編] まとめ・テスト		
8.	ファッション文化史 [日本編] 近世前期 (戦国末期・安土桃山・江戸前期時代)		
9.	ファッション文化史 [日本編] 近世後期 (江戸時代中期・後期)		
10.	ファッション文化史 [日本編] まとめ・テスト		
11.	ファッション文化史 [日本編] 近代 (明治・大正・昭和 20 年まで)		
12.	ファッション文化史 [日本編] 現代 I (1945 年～1950 年代)		
13.	ファッション文化史 [日本編] 現代 II (1960 年～1970 年代)		
14.	ファッション文化史 [日本編] 現代 III (1980 年～1990 年代)		
15.	ファッション文化史 [日本編] まとめ・テスト		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	小テスト		
70%	30%		
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・必ず教科書を一読しておくこと。</li> <li>・次回の授業までにその都度前回の内容を理解しておくこと。</li> </ul>			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
美容文化論		公益社団法人 日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要時資料配布します。</li> </ul>			
そ の 他 (受講生への要望等)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書に沿って学習します。美容文化論を取り巻く社会背景、現在の美容業の社会情勢の変化を考え、社会貢献のできる美容業界を目指す方向性を身近なところから将来に向けて考えていきましょう。</li> </ul>			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
onda@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名	美容文化論 II		
担 当 者 名	木村 祐紀子		
科 目 コ ー ド	2130038	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	美容師必修
授業の概要と方法	授業は講義に偏ることなく、教科書内容に即した適切な課題を提示し、図書館などで調べ、意見交換、レポート提出など行う。展示会・ヘアショーなどに参加し、感性を高める。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国内外におけるファッションの変遷について理解する。</li> <li>2. 流行を追う心理、流行が社会に及ぼす影響、流行が美容業において占める、意義と役割について理解する。</li> <li>3. 服飾の原理、美容における服飾の意義などについて理解する。</li> <li>4. 服飾の歴史のあらまし、衣服の種類、衣服に関するエチケットなどについて学ぶ。</li> </ol>		
授 業 計 画			
1.	ファッション文化史（西洋編）	古代エジプト・古代ギリシャ・ローマ・古代ゲルマン	
2.	ファッション文化史（西洋編）	中世ヨーロッパ	
3.	ファッション文化史（西洋編）	近世Ⅰ（16世紀）	
4.	ファッション文化史（西洋編）	近世Ⅱ（17世紀）	
5.	ファッション文化史（西洋編）	近世Ⅲ（18世紀）	
6.	ファッション文化史（西洋編）	近代Ⅰ・Ⅱ（18世紀末～19世紀）	
7.	ファッション文化史（西洋編）	現代Ⅰ・Ⅱ（1910年～1990年）	
8.	ファッション文化史（西洋編）	現代Ⅲ（1940年～1950年）	
9.	ファッション文化史（西洋編）	現代Ⅳ・Ⅴ（1930年代）	
10.	ファッション文化史（西洋編）	現代Ⅵ・Ⅶ（1980年代・1990年代）	
11.	礼 装 の 種 類	和装の礼装・礼装の種類	
12.	ファッションの造形原理	「ファッションとは」	
13.	〃	トータルファッションの造形と原理	
14.	〃	色彩コーディネート	
15.	総合学習		
成績評価の方法	〔評価項目と割合〕		
定期試験	レポート提出		
70%	30%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
	・各講義で取扱う時代の、歴史的背景を調べておくこと。		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
美容文化論		公益社団法人 日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等			
	・講義の進度に応じて、適宜紹介をしていきます。（図書館蔵書の専門書等）		
そ の 他（受講生への要望等）			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績についてはレポート提出、期末テストを行い総合的に評価する。</li> <li>・歴史（ファッション史やヘア史）から、創造力、洞察力を養ってください。</li> </ul>		
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	授業終了後 10 分間、美容研究室（1号館 2階 210 室）にて待機しています。		

授 業 科 目 名	デザインアート		
担 当 者 名	木村 祐紀子		
科 目 コ ー ド	2130039	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	美容師必修
授業の概要と方法	オープンキャンパス・大学祭などでのヘア・メイクショーに向け、創作力やグループワークでのコミュニケーション能力を育てる。 また、作品作りを通して、基礎技術を練習する。(衣装作りの裁縫他)		
授業の到達目標	1. コミュニケーションを図り、作品づくりのアイデア、柔軟な発想力、創造力を鍛える。 2. 2 作品完成させる。		
授 業 計 画			
1.	授業内容説明、作品のテーマ決め①		
2.	作品製作① デッサンを描く		
3.	材料を揃える		
4.	レイアウト		
5.	作成		
6.	デコレーション		
7.	仕上げ		
8.	作品のテーマ決め②		
9.	作品製作② 組立		
10.	材料を揃える		
11.	レイアウト		
12.	作成		
13.	デコレーション		
14.	仕上げ		
15.	まとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
課題への取り組み方	作品		
50%	50%		
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
・製作に必要な材料を事前に準備して下さい。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
使用しない			
参考書又は参考資料等			
・授業の進度に応じて、適宜紹介していきます。 ・美容及びファッション誌、web サイト 等			
そ の 他 (受講生への要望等)			
・筆記用具や文具 (ハサミなど) の準備をして下さい。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	授業終了後 10 分間、美容研究室 (1 号館 2 階 210 室) にて待機しています。		

授 業 科 目 名	美容技術理論 I		
担 当 者 名	赤崎 知美		
科 目 コ ー ド	2130024	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	通年
単 位 数	4	履 修 方 法	必修 美容師必修
授業の概要と方法	美容師資格を取得し、一人前の技術者になるため、美容の基礎的な理論を学び、実習をより深く具体的に理解する。更に表現する為の手段を学び、国家試験へ向け理論・実技の理解力向上を目指す。		
授業の到達目標	1. 「美容技術理論 I」と「美容実習 I」の教科書を照らし合わせながら、理論的根拠をあたえ、技術の習得を容易にする。 2. 理論が技術を導き、技術で理論の正しさを知る。		
授 業 計 画			
1.	序章 美容技術理論を学ぶにあたって	16.	<b>3章 ヘアカットイング</b> 1.ヘアカットイングとは～3.ヘアカットイングの正しい姿勢
2.	<b>1章 美容用具</b> 1.美容技術における用具～3.ブラシ	17.	4.ブロッキング～5.ヘアカットイングの基礎理論
3.	4.シザーズ～8.ローラー	18.	6.ベーシックなカット技法～7.シザーズによるカット技法
4.	9.ヘアアイロン～12.ヘアドライヤー	19.	8.レザーによるカット技法
5.	序章、1章 まとめ	20.	3章 まとめ
6.	<b>2章 シャンプーイング</b> 1.シャンプーイング総論	21.	<b>5章 ヘアセッティング</b> 1.ヘアセッティングとは～3.ヘアシェーピング
7.	2.サイドシャンプー/3.バックシャンプー	22.	4.ヘアカーリング
8.	4.リンス・コンディショナー・トリートメント	23.	5.ローラーカーリング
9.	5.スカルプトリートメント/6.ヘッドスパ	24.	6.ヘアウエーピング/7.ブロードライ
10.	2章 まとめ	25.	8.アイロンセッティング～11.ウィッグとヘアピース
11.	<b>4章 パーマネントウェーピング</b> 1.パーマネントウェーブの歴史と現在 ～3.パーマ剤の分類	26.	5章 まとめ
12.	4.パーマ剤に関する注意事項	27.	<b>6章 ヘアカラーリング</b> 1.ヘアカラーリング概論～4.染毛のメカニズム
13.	5.パーマネントウェーブ技術	28.	5.色の基本～8.染毛剤使用時の注意事項
14.	6.ワインディングのバリエーション/7.縮毛矯正	29.	9.ヘアカラーリングの道具～12.ヘアブリーチ（脱色）
15.	4章 まとめ	30.	6章 まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	提出物		
80%	20%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・授業中に、次の授業までに行うべき予習・復習について指示します。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
美容技術理論 1		公益社団法人 日本理容美容教育センター	
美容実習 1		公益社団法人 日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等			
・ワークブック及び過去問題 他			
そ の 他（受講生への要望等）			
・ノート、プリント他、提出物は期日までに必ず提出して下さい。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
akasaki@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名	美容技術理論 II		
担 当 者 名	恩田 美智子		
科 目 コ ー ド	2130025	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	通年
単 位 数	4	履 修 方 法	美容師必修
授業の概要と方法	<p>・美容技術理論を学ぶ目的は美容技術の習得を容易にすることである。 「美容技術理論 I」で学習した美容の基礎的な理論と美容実習で学んだ技術を、さらに深めていき、美容師としての必要な技術を身に付ける。美容器具の正しい取扱いの方法と美容の基礎的技術とを 作業の実際に即して習熟させ、優れた美容技術は、経験によってだけ得られるものではなく、科学的合理的な方法によって把握されなければならないことを強調する。具体的には、エステティック、ネイル、メイクアップ、日本髪、着付け技術を学ぶ。</p> <p>・必要に応じて実物等見本を見ます。DVD 鑑賞あり。</p>		
授業の到達目標	<p>1. 美容技術についての知識を衛生的、能力的に実践する態度と習慣とを養い、工夫と創造の能力とを身につける。</p> <p>2. 美容技術を裏付ける基本的理論をしっかり習得し、美容師として必要な技術を身につけること。</p>		
授 業 計 画			
1.	エステティック… エステティック概論、皮膚の生理と構造、カウンセリング	16.	日本髪…日本髪の由来、日本髪の各部の名称、種類と特徴
2.	エステティック…美容におけるマッサージ理論、フェイシャルケア技術	17.	日本髪…日本髪と調和、日本髪の装飾品、日本髪の結髪道具
3.	エステティック…フェイシャル及びデコルテマッサージ、フェイシャルパック	18.	日本髪…日本髪の結髪技術、日本髪の手入れ、かつら
4.	エステティック…ボディケア技術、ボディマッサージ、脱毛ケア技術	19.	日本髪… 小テスト
5.	エステティック…小テスト	20.	着付けの理論と技術… 着付けの目的、礼装、着物と季節、着物のいろいろ
6.	ネイル技術…ネイル技術概論、ネイル技術の種類	21.	着付けの理論と技術… 帯、小物、着物各部の名称、着物のたたみ方
7.	ネイル技術… 爪の構造と機能、爪のカット形状、ネイル技術と公衆衛生	22.	着付けの理論と技術… 着付けの一般的要領、留袖着付け技術、振袖着付け技術、帯締め、帯揚げの結び方
8.	ネイル技術…カウンセリング、ネイルケア	23.	着付けの理論と技術… 男子礼装羽織・袴着付け技術、羽織のひもの結び方、女子袴着付け技術
9.	ネイル技術…アーティフィシャルネイル、手と足のマッサージ	24.	着付けの理論と技術… 婚礼着付けの際の注意事項、 和装花嫁、洋装花嫁 (ウェディングドレスの知識)
10.	ネイル技術… 小テスト	25.	着付けの理論と技術… 小テスト
11.	メイクアップ…メイクアップ 概論、顔の形態学的な観察、メイクアップ と色彩	26.	美容技術理論 I (序 章～第 3 章) まとめ
12.	メイクアップ…皮膚の生理と構造、メイクアップ の道具、スキンケア	27.	美容技術理論 I (第 4 章～第 6 章) まとめ
13.	メイクアップ…ベースメイクアップ、アイメイクアップ、アイブローメイクアップ	28.	美容技術理論 II (第 7 章～第 9 章) まとめ
14.	メイクアップ…リップメイクアップ、フラッシュメイクアップ、まつ毛エクステンション	29.	美容技術理論 II (第 10 章～第 11 章) まとめ
15.	メイクアップ…小テスト	30.	美容技術理論 … 小テスト
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	小テスト		
70%	30%		
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
<p>・必ず教科書を一読しておくこと。</p> <p>・次回の授業までにその都度前回の内容を理解しておくこと。</p>			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
美容技術理論 2		公益社団法人 日本理容美容教育センター	
美容実習 2		公益社団法人 日本理容美容教育センター	
ワークブック 問題と解答解説		公益社団法人 日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等			
<p>・必要時資料配布します。</p>			
そ の 他 (受講生への要望等)			
<p>・教科書に沿って学習します。</p> <p>・美容実習の履修状況に配慮し、講義を進めます。</p> <p>・技術には、裏付けとなる理論が必ずあります。理論は「なぜそうなるのか」を解明し、技術について整然と道筋を立てて説明できるよう組み直したもので「なぜそうなるのか」を解き明かし技術に取り組みめるようになってください。</p>			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
onda@hcc.ac.jp			



授 業 科 目 名	マネジメント論・労務管理		
担 当 者 名	赤崎 知美		
科 目 コ ー ド	2130001	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	必修 美容師必修
授業の概要と方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような店をつくっていききたいかという計画を立て、それを実現していく事を学ぶ。</li> <li>・よい店として管理する為には、何に注目すべきなのか。経営者の視点、資金の管理に重点をおき、経営の基礎を学ぶ。</li> <li>・美容業において、人は重要な存在である。その人に活躍してもらう為には、どうすればよいのか、また自分が働いて行くうえで、重視していかなければならないことはなにか学ぶ。</li> <li>・美容業の特徴を踏まえ、健康で安全な職場について考える。</li> </ul>		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雇用される側からの視点で、働くものとしての権利や義務についてきちんと理解し、自らのキャリアプランを考えていくことの重要性を学び、長い目で仕事をとらえ、獲得した技術を最大限に活用し安定した生活ができるようになることを学び取る。</li> </ul>		
授 業 計 画			
1.	経営管理	…経営者の視点	
2.	〃	…経営の形態	
3.	〃	…資金の管理	
4.	〃	…コストを管理する	
5.	労務管理	…労務管理とはなにか	
6.	〃	…待遇・福利厚生	
7.	〃	…働くあなたの姿	
8.	〃	…給与明細	
9.	健康管理	…健康管理の意義	
10.	〃	…美容所の特性	
11.	〃	…健康に影響を及ぼすさまざまな危険	
12.	〃	…アレルギーについて	
13.	〃	…美容師に多い健康上の問題	
14.	〃	…膀胱に違和感がある	
15.	〃	…環境と健康	
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	ディスカッション	授業への取組み姿勢	
50%	30%	20%	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
・マネジメントに関する書籍を読んでおくように。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
運営管理 (美容)		公益社団法人 日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等			
・講義の進度に応じて、適宜紹介をしていきます。(図書館蔵書の専門書等)			
そ の 他 (受講生への要望等)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>※成績評価については、講義、ディスカッション、定期試験などを通し総合的に評価する。</li> <li>・求人票などに記載されている項目などをきちんと見て、理解できるように興味を持つこと。</li> </ul>			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
akasaki@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名	美容接客法		
担 当 者 名	赤崎 知美		
科 目 コ ー ド	2130035	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	必修 美容師必修
授業の概要と方法	美容業に携わるには、まず初めに「仕事をする」という事がどういう事かを十分に理解し、次に「接客」を顧客の立場に立ったサービスの観点から考え、その役割と基本計画と実践、接客の場で起こる問題について理解出来るよう、ディスカッション・ロールプレイング・講義していく。		
授業の到達目標	「接客」は、サービスとして美容の仕事の中核でもあり、その内容をしっかり理解することが求められます。経営者側の声を参考に求められる人材像を明らかにし、技術に偏りがちな学生の視点を、お客様の満足の為に尽くすという視点から、求められることがどのような人を学ぶ。		
授 業 計 画			
1.	仕事をするということ（現場が求める人・良識を鍛える）		
2.	仕事をするということ（お客様を考える・お客様に接するという事・チームのメンバーになるということ）		
3.	接客の役割と基本（接客とは何か・よい接客を考える・接客にかかわる人）		
4.	接客の役割と基本（よい接客者の基本的要素・接客者の心構え）		
5.	接客の計画・実践（計画の必要性・接客の環境づくり・接客の範囲）		
6.	接客の計画・実践（接客の流れ）		
7.	接客の計画・実践（接客ポイント）		
8.	接客の場で起こる問題（接客にかかわるトラブル・事故）		
9.	接客の場で起こる問題（接客で発生が予想される問題）問題への対処		
10.	サービススタッフの資質（必要とされる要件・従業要件）		
11.	専門知識（サービス知識・従業知識）		
12.	一般知識（社会常識）		
13.	対人技能（人間関係・接客知識・話し方・聞き方・服装）		
14.	実務技能（問題処理・環境整備・金品管理・金品搬送・社交業務）		
15.	まとめ		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
定期試験	検定試験		
50%	50%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な接客状態を調べる事。</li> <li>・検定の対策を指示しますので、検定取得に向けて学習すること。</li> </ul>			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
サービス接客検定受験ガイド3級	実務技能検定協会	早稲田教育出版	
運営管理（美容）		公益社団法人 日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等			
○「サービス接客検定実問題集 1-2 級」（早稲田教育出版）			
そ の 他（受講生への要望等）			
・ディスカッションなどでは、積極的に意見を言うこと(自分の意見をまとめて言えるようになる)			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
akasaki@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名	美容実習 I		
担 当 者 名	恩田 美智子 ・ 赤崎 知美 ・ 木村 祐紀子		
科 目 コ ー ド	2130045	授 業 形 態	実習
学 年	1	開 講 期	通年
単 位 数	4	履 修 方 法	必修 美容師必修
授業の概要と方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に身に付け、これらの基本的操作を適宜組み合わせることで完成させる技術を習得することがねらわれている。</li> <li>・美容所における衛生管理の重要性を認識し、器具の消毒などの適切な実施方法も身に付けること。</li> <li>・授業は実習が中心となる。「美容技術理論 I」で学んだ理論を念頭におき、モデルウィッグを使用し実践トレーニングを通して基礎技術を確実に身に付けることが大切。技術内容によっては相モデルで実習を行う。美容の基礎技術や理論の DVD 等も見る。</li> </ul>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 美容用具の操作方法、消毒方法、手入れ方法や用途に適した美容器具の選択方法について理解し、実践できる能力を身につけること。</li> <li>2. 美容技術を行う場合に必要な基本動作（美容技術を行う場合の位置、姿勢など）を確実に身につけ、器具の消毒については、その重要性を十分に認識し、適切な方法で実施できるように習慣付けること。</li> <li>3. ヘアシャンプー・ヘアリンス技術、スカルプトリートメント、ヘアトリートメント、ヘアカットイング、パーマネット・ウェービング、ヘアセッティングなどの基本的な頭部技術を確実に身に付けること。</li> <li>4. 美容師国家試験「合格」を目標とし、各課題の技術を習得すること。</li> </ol>		
授 業 計 画			
1.	美容技術（実習）の加ケア説明、美容用具配布・取扱い説明	16.	作品制作 グループ構成
2.	クロス掛け、ブラッシング、スカルプマッサージ	17.	作品制作 作品テーマ
3.	ヘアセッティング（ブロードライスタイリング） ヘアカラーリング（ブリーチ）	18.	作品制作 ヘアスタイル
4.	ヘアセッティング（ブロードライスタイリング） ヘアカラーリング（酸化染毛剤）	19.	作品制作 メイクアップ
5.	まつ毛エクステンション 理論 ヘアカラーリング（酸性染毛料）	20.	作品制作 ファッション
6.	まつ毛エクステンショントレーニング シャンプーイング（サイドシャンプー）、ドライ	21.	作品制作 プレゼンテーション
7.	パーマネットウェービング（ブロッキング） サイドシャンプー（リンス）、ドライ	22.	バックシャンプー、ヘッドスパ、ブロードライ オールウェーブセッティング 1 段目
8.	ブロッキング 10 ブロック サイドシャンプー（コンディショナー）、ドライ	23.	バックシャンプー、ヘッドスパ、ブロードライ オールウェーブセッティング 2 段目
9.	ワインディング センター サイドシャンプー（トリートメント）、ドライ	24.	バックシャンプー、ヘッドスパ、アイロンセッティング オールウェーブセッティング 3 段目
10.	ワインディング バックサイド 作品制作 テーマ決め	25.	バックシャンプー、ヘッドスパ、アイロンセッティング オールウェーブセッティング 4 段目
11.	ワインディング サイド / 作品制作	26.	バックシャンプー、ヘッドスパ、アップスタイル オールウェーブセッティング 5 段目
12.	オールウェーブセッティングウィッグ事前準備 シャンプーイング、ドライ	27.	ワインディングノバリエーション オールウェーブセッティング 6 段目
13.	オールウェーブセッティングウィッグ事前準備 シャンプーイング、ブロードライ	28.	ワインディング ブロッキング（国家試験第 2 課題） オールウェーブセッティング 7 段目
14.	パーマネットウェービング（ワインディング） ヘアセッティング（ヘアウェービング）理論	29.	ワインディング各セクション オールウェーブセッティングスタイル構成
15.	ワインディングレベルチェック ヘアウェービング技術構成	30.	ワインディング技術構成確認 オールウェーブセッティング タイムチェック
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
定期試験	小テスト	授業への取り組み姿勢	
70%	20%	10%	

授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「美容技術理論Ⅰ」で学習する理論の基礎を基に、美容技術の基礎と立ち位置や姿勢など、美容技術を行う場合に必要の基本動作を確実に身につけることが出来るよう授業外でも練習をして下さい。</li> <li>・授業計画を確認し教科書等で予習復習を必ずして下さい。</li> </ul>		
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
美容技術理論 1		公益社団法人 日本理容美容教育センター
美容実習 1		公益社団法人 日本理容美容教育センター
改正美容師実技試験課題 衛生と技術の解説		公益財団法人理容師美容師試験研修センター
参考書又は参考資料等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要時資料配布</li> </ul>		
その他の他（受講生への要望等）		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価については、試験成績に小テストの結果、受講態度を加味して評価する。</li> <li>・教科書を良く読んでおく。学習したことの反復練習。</li> <li>・美容器具の正しい取扱いの方法、美容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣とを養い、工夫と創造の能力とを身に付けてください。</li> </ul>		
担当教員の連絡先等		
担当教員 E-mail	その他	
onda@hcc.ac.jp（恩田） akasaki@hcc.ac.jp（赤崎）		

授 業 科 目 名	美容実習 II		
担 当 者 名	社川 武弘		
科 目 コ ー ド	2130005	授 業 形 態	実習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	必修 美容師必修
授業の概要と方法	「美容実習 I」で学んだ基礎技術の復讐を行い、さらに応用のテクニックを学ぶ。ベーシックデザインを基本としてさらにバリエーションの展開を目指す。また、最終的には仕上りのイメージを表現できることを目的とする。		
授業の到達目標	美容の業務を安全かつ効果的に実施する為、基本的操作を確実に身に付けさせるとともに、これらの基本的操作を適宜組み合わせることで完成させる技術を習得すること。		
授 業 計 画			
1.	ヘアアレンジ (カーラー巻)		
2.	ヘアアレンジ (1束・ピン打ち)		
3.	ヘアアレンジ (合わせ夜会)		
4.	ヘアアレンジ (逆毛)		
5.	ヘアアレンジ (シニヨン)		
6.	ヘアアレンジ (アイロン・編込み)		
7.	ヘアアレンジ・作品制作 1 計画		
8.	ヘアアレンジ・作品制作 2 アレンジ作業		
9.	ヘアアレンジ・作品制作 3 仕上げとまとめ・講評		
10.	カット (シザーの使い方、ワンレングス 1) バック・フロント		
11.	カット (シザーの使い方、ワンレングス 2) 仕上げと講評		
12.	レザーカット		
13.	デザインワーク (グループワーク・ヘアメイク)		
14.	デザインワーク (グループワーク・ファッション)		
15.	デザインワーク (グループワーク・トータルファッション)		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
完成度 (作品課題、表現力、技術力等を含む)		授業への取組み姿勢	
80%		20%	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
・規定時間内での課題作成へ向け復習すること、更に美容書、ファッション書等、図書館にて閲覧しておくこと。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
・必要時、資料配布			
参考書又は参考資料等			
・講義の進度に応じて、適宜紹介をしていきます。(図書館蔵書の専門書等)			
そ の 他 (受講生への要望等)			
・私語厳禁、道具一式慎重取扱い。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
shagawa@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名	美容実習 III		
担 当 者 名	恩田 美智子 ・ 赤崎 知美		
科 目 コ ー ド	2130011	授 業 形 態	実習
学 年	2	開 講 期	通年
単 位 数	2	履 修 方 法	美容師必修
授業の概要と方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「美容実習 I」で習得した技術の一つであるワインディング技術オールウェーブセッティング技術を国家試験実技課題に沿って作成する。</li> <li>・スタイル構成を確実に把握させ、技術条件を理解させて課題を作成させる。</li> <li>・国家試験受験へ向け、課題作成時間・準備時間・全体のバランスやつながり、技術の条件、作業上のポイントなどを具的に理解させることがねらいである。</li> <li>・各自モデルウィッグを使用し実習を行う。</li> </ul>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「美容実習 I」で学んだ基礎的技術をベースに、美容師国家試験の実技試験課題（第 2 課題 ワインディング・ オールウェーブセッティング）を反復練習する。</li> <li>2. 定期的にレベルチェックを行い、美容師国家試験に合格することを目標とする。</li> </ol>		
授 業 計 画			
1.	国家試験第 2 課題 ワインディング オールウェーブセッティング スタイル構成	16.	国家試験第 2 課題 ワインディング（フロント） オールウェーブセッティング（フィンガーウェーブ）
2.	WD 各セクションによるロッドの取め方 センター、フロント OS フィンガーウェーブ・スカルプチュアカール	17.	ワインディング（センター） オールウェーブセッティング（ピンカール）
3.	WD 各セクションによるロッドの取め方 センター、フロント OS 第 1 段目 ウェーブ構成	18.	ワインディング（バックサイド） オールウェーブセッティング（ピニング）
4.	WD セクションによるロッドの取め方 バックサイド、サイド、ネープ OS フィンガーウェーブ・スカルプチュアカール	19.	ワインディング（サイド） オールウェーブセッティング（ウェーブ 7 段構成）
5.	WD セクションによるロッドの取め方 バックサイド、サイド、ネープ OS リフトカール 左巻き	20.	ワインディング（ネープ） オールウェーブセッティング（スタイル構成）
6.	WD ステムの角度と方向性 OS リフトカール 右巻き	21.	実技試験の概要 （受験に当たっての心構え・実技試験の実施概要） 衛生実技試験（衛生面における遵守事項）
7.	WD オンベース OS リフトカール	22.	国家試験第 2 課題 実技の条件
8.	WD 1/2 オフベース OS メイポールカール	23.	国家試験第 2 課題（I） タイム・レベルチェック
9.	WD オンベース・1/2 オフベース のつなぎ OS クロッキノールカール	24.	国家試験第 2 課題（II） 用具類
10.	WD シェープの状態 OS メイポールカール・クロッキノールカール	25.	国家試験第 2 課題（III） 審査の項目・ポイント
11.	WD ストランドのシェープ OS フィンガーウェーブ、シェープ、 ウェーブ幅、リッジの状態	26.	国家試験第 2 課題（IV） 減点対象
12.	WD 輪ゴムの掛け方 OS ピンカール ループ、ステム、 カールスペースの状態	27.	国家試験第 2 課題（V） 配分点数及び減点
13.	WD 残り毛の有無 OS ピニング良否	28.	国家試験第 2 課題（VI） 条件違反
14.	WD 全体のバランスチェック OS 全体のつながりチェック	29.	国家試験第 2 課題（VII） タイムチェック
15.	国家試験第 2 課題 タイム・レベルチェック ワインディング 20 分・オールウェーブセッティング 25 分	30.	国家試験第 2 課題（VIII） レベルチェック
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
定期試験	小テスト	授業への取組み姿勢	
70%	20%	10%	

<b>授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）</b>		
・タイムを取りレベルチェックを行うので、日々練習をし技術の向上を目指してください。		
<b>使用テキスト</b>		
書籍名	著者	出版社
美容技術理論 1		公益社団法人 日本理容美容教育センター
美容実習 1		公益社団法人 日本理容美容教育センター
改正美容師実技試験課題 衛生と技術の解説		公益財団法人理容師美容師試験研修センター
<b>参考書又は参考資料等</b>		
・必要時資料配布。		
<b>その他の（受講生への要望等）</b>		
・改正美容師実技試験課題 衛生と技術の解説で第 2 課題の構成を理解する。 ・実技試験第 2 課題の発表後は受験課題のみの実習を行います。国家試験合格を目指し反復練習をして下さい。		
<b>担当教員の連絡先等</b>		
担当教員 E-mail	その他	
onda@hcc.ac.jp（恩田） akasaki@hcc.ac.jp（赤崎）		

授 業 科 目 名		美容実習 IV	
担 当 者 名		社川 武弘	
科 目 コ ー ド	2130028	授 業 形 態	実習
学 年	2	開 講 期	通年
単 位 数	2	履 修 方 法	美容師必修
授業の概要と方法	美容師国家試験課題であるレイヤースタイルを中心に学びながら、カッティング理論や技術をより深く実践的に習得する。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の客の要望に応じた美容技術を確実に提供できるよう総合的な技術の基礎を身に付ける。</li> <li>・美容所における衛生管理の重要性を認識させ、器具の消毒などの適切な実施方法を身に付ける。</li> </ul>		
授 業 計 画			
1.	国家実技試験 第1課題 (レイヤーカット・マニュアル作成)	16.	国家実技試験 第1課題 (レイヤーカット・タイム 28分)
2.	国家実技試験 第1課題 (レイヤーカット・マニュアル完成)	17.	国家実技試験 第1課題 (レイヤーカット・タイム 27分)
3.	国家実技試験 第1課題 (レイヤーカット・タイム 60分)	18.	国家実技試験 第1課題 (レイヤーカット・タイム 26分)
4.	国家実技試験 第1課題 (レイヤーカット・タイム 55分)	19.	国家実技試験 第1課題 (レイヤーカット・タイム 25分)
5.	国家実技試験 第1課題 (レイヤーカット・タイム 50分)	20.	国家実技試験 第1課題 (レイヤーカット・タイム 24分)
6.	国家実技試験 第1課題 (レイヤーカット・タイム 45分)	21.	国家実技試験 第1課題 (レイヤーカット・タイム 23分)
7.	国家実技試験 第1課題 (レイヤーカット・タイム 40分)	22.	国家実技試験 第1課題 (レイヤーカット・タイム 22分)
8.	国家実技試験 第1課題 (レイヤーカット・タイム 40分) 小テスト	23.	国家実技試験 第1課題 (レイヤーカット・タイム 22分) 小テスト
9.	国家実技試験 第1課題 (レイヤーカット・タイム 35分)	24.	国家実技試験 第1課題 (レイヤーカット・タイム 21分)
10.	国家実技試験 第1課題 (レイヤーカット・タイム 33分)	25.	国家実技試験 第1課題 (レイヤーカット・タイム 20分・フロント重視)
11.	国家実技試験 第1課題 (レイヤーカット・タイム 31分)	26.	国家実技試験 第1課題 (レイヤーカット・タイム 20分・長さ重視)
12.	国家実技試験 第1課題 (レイヤーカット・タイム 30分)	27.	国家実技試験 第1課題 (レイヤーカット・タイム 20分・つながり重視)
13.	国家実技試験 第1課題 (レイヤーカット・タイム 29分)	28.	国家実技試験 第1課題 (レイヤーカット・タイム 20分・チェックカット重視)
14.	国家実技試験 第1課題 (レイヤーカット・タイム 28分)	29.	国家実技試験 第1課題 (レイヤーカット・タイム 20分・バック重視)
15.	国家実技試験 第1課題 (レイヤーカット・タイム 28分) 小テスト	30.	国家実技試験 第1課題 (レイヤーカット・タイム 20分) 小テスト
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
完成度 (作品課題、表現力、技術力等を含む)		授業への取組み姿勢	
80%		20%	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
・規定時間内での課題作成へ向け復習する。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
美容技術理論 1		公益社団法人 日本理容美容教育センター	
技術の解説及び図解		公益社団法人 日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等			
・必要時資料配布。			
そ の 他 (受講生への要望等)			
私語厳禁、道具一式慎重取扱い。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
shagawa@hcc.ac.jp			



授 業 科 目 名	美容実習 V		
担 当 者 名	恩田 美智子		
科 目 コ ー ド	2130009	授 業 形 態	実習
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	美容師必修
授業の概要と方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美容師国家試験を想定し、模擬試験を行う。</li> <li>・美容師国家試験課題である実技試験(1)美容の基礎的技術【第1課題カッティング、第2課題ワインディング又はオールウェーブセッティング】と(2)衛生上の取扱い【用具類の衛生状態及び衛生上の取扱い】についての審査の内容や項目について理解させ、国家試験実技課題を反復練習し、美容師国家試験実技課題の技術向上を目指すことがねらいである。ならびに筆記試験対策を行う。</li> </ul>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実技試験・筆記試験とも各課題毎にレベルチェックを行い、苦手教科の復習や不得意技術の反復練習を行い、美容師国家試験合格を目標とする。</li> <li>2. 模擬試験にて国家試験実技試験のシュミレーションを行う上で実際の実技試験の流れを把握し本番に臨めるようにする。</li> </ol>		
授 業 計 画			
1.	実技 第1課題「カッティング」 / 第2課題「ワインディング・オールウェーブセッティング」	解説	
2.	実技 第2課題「ワインディング・オールウェーブセッティング」	・ 筆記	
3.	実技 第1課題「カッティング」 / 第2課題「ワインディング・オールウェーブセッティング」	・ 筆記	
4.	実技 第2課題「ワインディング・オールウェーブセッティング」	タイムチェック	・ 筆記
5.	美容師国家試験模擬試験の準備・説明 / 実技 第1課題・第2課題・筆記		
6.	美容師国家試験説明 / 実技 第1課題・第2課題・筆記		
7.	美容師国家試験模擬試験(実技・筆記)	【第1回】	実技試験概要
8.	美容師国家試験模擬試験(実技・筆記)	【第2回】	受験に当たっての心構え
9.	美容師国家試験模擬試験(実技・筆記)	【第3回】	実技試験の実施概要
10.	美容師国家試験模擬試験(実技・筆記)	【第4回】	衛生試験
11.	美容師国家試験模擬試験(実技・筆記)	【第5回】	衛生面における遵守事項
12.	美容師国家試験模擬試験(実技・筆記)	【第6回】	衛生面における遵守事項と解説
13.	美容師国家試験模擬試験(実技・筆記)	【第7回】	実技試験課題
14.	美容師国家試験模擬試験(実技・筆記)	【第8回】	カッティング
15.	美容師国家試験模擬試験(実技・筆記)	【第9回】	ワインディング・オールウェーブセッティング
成績評価の方法	【評価項目と割合】		
授業内の模擬試験成績：実技	授業内の模擬試験成績：筆記		
60%	40%		
授業外で行うべき学習(準備学習・事後学習等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美容師国家試験の内容について実技・筆記共理解しておくこと。</li> <li>・技術の向上は毎日の練習です。手を休めることなく反復練習をしてください。</li> </ul>		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
美容技術理論1		公益社団法人 日本理容美容教育センター	
美容実習1		公益社団法人 日本理容美容教育センター	
改正美容師実技試験課題 衛生と技術の解説		公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	
美容師国家試験受験案内		公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	
参考書又は参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要時資料配布。</li> <li>・実技試験課題発表後は、模擬試験を行う。</li> </ul>		
そ の 他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改正美容師実技試験課題集で第2課題の構成を理解する。</li> <li>・実技試験第2課題の発表後は模擬試験を行います。課題発表後に配布される美容師国家試験受験案内を熟読し完璧に内容を把握してください。</li> </ul>		
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
onda@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名	ヘアメイクアップ I		
担 当 者 名	社川 武弘		
科 目 コ ー ド	2130040	授 業 形 態	実習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	必修 美容師必修
授業の概要と方法	<p>メイクアップの基礎知識や理論を学び、テクニックを習得する。 個性を引き出し、シチュエーションに合わせたメイクを習得し、第1印象をよくする事がねらいである。 ヘアメイクアーティストとして必要な豊かな人間性・感性・創造性を学ぶ。</p>		
授業の到達目標	<p>メイクアップ技術の歴史、理論、現状のほか、各種のメイクアップ技術の目的、種類、特徴、技術上の注意などについて理解すること、特に、メイクアップ技術の効果と安全性に関する科学的基礎について十分に認識すること。</p>		
授 業 計 画			
1.	道具の説明・点検・顔のバランス（骨格、標準の顔のプロポーション）		
2.	顔のバランス・スキンケア（マッサージ、肌質）		
3.	ファンデーション・フェイスパウダー（1色塗り、多色塗り）		
4.	ハイライト、シャドー（骨格修正）		
5.	アイメイク I（グラデーション）		
6.	アイメイク II（アイライン、マスカラ）		
7.	アイブロー（標準の眉）		
8.	リップ（標準の口元）		
9.	チーク（ほお紅）		
10.	パーソナルメイクアップ（標準の顔型作り・相モデル1）		
11.	パーソナルメイクアップ（標準の顔型作り・相モデル2）		
12.	パーソナルメイクアップ（キュート・相モデル1）		
13.	パーソナルメイクアップ（キュート・相モデル2）		
14.	デザインワーク（グループワーク）		
15.	デザインワーク（作品評価・指導）		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
完成度（作品課題、表現力、技術力等を含む）	授業への取組み姿勢		
80%	20%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・規定時間内での課題作成へ向け復習すること、更に美容書、ファッション書等、図書館にて閲覧しておくこと。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
・必要時、資料配布。			
参考書又は参考資料等			
・講義の進度に応じて、適宜紹介をしていきます。（図書館蔵書の専門書等）			
そ の 他（受講生への要望等）			
・私語厳禁、道具一式慎重取扱い。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
shagawa@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名	ヘアメイクアップ II		
担 当 者 名	社川 武弘		
科 目 コ ー ド	2130041	授 業 形 態	実習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	必修 美容師必修
授業の概要と方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ヘアメイクアップ I」で学んだ基礎知識をベースにして TPO に応じた高度なメイクアップテクニックを学ぶ。</li> <li>・メイクアップの最大の目的である心身のメイクアップの意義を理解する。</li> <li>・トータルビューティアーの必要性を認識し、各自の感性と創造性を生かした作品を制作する。</li> </ul>		
授業の到達目標	メイクアップ技術の歴史、理論、現状のほか、各種のメイクアップ技術の目的、種類、特徴、技術上の注意などについて理解すること、特に、メイクアップ技術の効果と安全性に関する科学的基礎について十分に認識すること。		
授 業 計 画			
1.	パーソナルメイクアップ (エレガント・相モデル 1)		
2.	パーソナルメイクアップ (エレガント・相モデル 2)		
3.	パーソナルメイクアップ (クール・相モデル 1)		
4.	パーソナルメイクアップ (クール・相モデル 2)		
5.	パーソナルメイクアップ (フレッシュ・相モデル 1)		
6.	パーソナルメイクアップ (フレッシュ・相モデル 2)		
7.	火傷メイク		
8.	ショーメイクアップ (グラデーション・相モデル 1)		
9.	ショーメイクアップ (グラデーション・相モデル 2)		
10.	ショーメイクアップ (ライン)		
11.	ブライダルメイクアップ (洋装)		
12.	スチールメイクアップ (相モデル 1)		
13.	スチールメイクアップ (相モデル 2)		
14.	創作作品 (ヘアメイク)		
15.	創作作品 (トータルファッション)		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
完成度 (作品課題、表現力、技術力等を含む)		授業への取組み姿勢	
80%		20%	
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 (準 備 学 習 ・ 事 後 学 習 等)			
・ 規定時間内での課題作成へ向け復習すること、更に美容書、ファッション書等、図書館にて閲覧しておくこと。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名		著者	出版社
使用しない			
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
・ 講義の進度に応じて、適宜紹介をしていきます。(図書館蔵書の専門書等)			
そ の 他 (受 講 生 へ の 要 望 等)			
・ 私語厳禁、道具一式慎重取扱い。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail		その他	
shagawa@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名	美容総合技術		
担 当 者 名	赤崎 知美		
科 目 コ ー ド	2130010	授 業 形 態	実習
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	美容師必修
授業の概要と方法	1 年時で習得した、基礎技術、応用技術に加え、理論と実習との相互の連携を図って美容師としての専門技術、接客（気づき）を効果的に習得させるように、相モデルなどで体験し、模擬サロンを通して実習する。		
授業の到達目標	1. 実際のサロンワークに見立て、実習を行い、接客を通しての気づき、技術を通しての、ひらめき、感性などをお互いに、引き出し合い学習していく。 2. サロンワークにおける施術の中で、薬剤を使用するパーマメントウェーブ、ヘアカラーリングは、正確な技術と薬剤を使用するうえでの正しい使用方法と製品の知識を習得する。		
授 業 計 画			
1.	授業内容についての説明（グループ決め、サロン作り など）カウンセリング		
2.	シャンプー・ブロー（技術者・アシスタント・お客様） 隔週		
3.	シャンプー・ブロー（技術者・アシスタント・お客様） 隔週		
4.	シャンプー・ブロー（技術者・アシスタント・お客様） 隔週		
5.	パーマ（技術者・アシスタント・お客様） 隔週		
6.	パーマ（技術者・アシスタント・お客様） 隔週		
7.	パーマ（技術者・アシスタント・お客様） 隔週		
8.	カラーリング（技術者・アシスタント・お客様） 隔週		
9.	カラーリング（技術者・アシスタント・お客様） 隔週		
10.	カラーリング（技術者・アシスタント・お客様） 隔週		
11.	創作作品制作 計画（ウィッグ）		
12.	創作作品制作 計画（ウィッグ）		
13.	創作作品制作 計画（モデル）		
14.	創作作品制作 計画（モデル）		
15.	創作作品制作 発表（モデル）		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
接客態度		授業への取組み姿勢	事前学習等
50%		25%	25%
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・パーマ・カラーなどの施術の流れは、復習しておくこと。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名		著者	出版社
美容実習 1			公益社団法人 日本理容美容教育センター
美容技術理論 1			公益社団法人 日本理容美容教育センター
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
・講義の進度に応じて、適宜紹介をしていきます。（図書館蔵書の専門書等）			
そ の 他（受講生への要望等）			
・1年時の対ウィッグとは違い、対お客様（人）なので、きちんとした身なりで接客を行う事。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail			その他
akasaki@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名	コーディネート（着装）		
担 当 者 名	木村 祐紀子		
科 目 コ ー ド	2130027	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	必修 美容師必修
授業の概要と方法	日本の伝統や文化を通じて和の心を学び、着物の基礎知識・技術、美容師としての知識及び TPO に応じた着装を身に付ける。 「美容技術理論Ⅱ」の教科書や DVD を参考に、実習を中心に授業を行う。 また、オープンキャンパス、大学祭などに使用する衣装や小物を作成する。		
授業の到達目標	1. 基礎技術（浴衣を着る。留袖を着せる。）が出来るようになる。 2. 和装の技術を学び、美容師としての知識を身に付ける。 3. 和のマナーを学び、思いやりや和の「心」を学習することを目標とする。 4. 作品づくり		
授 業 計 画			
1.	授業内容説明、実習教材配布、準備、マナーの基本		
2.	浴衣の着方①		
3.	補正、帯結び		
4.	浴衣の着方②		
5.	小テスト（浴衣）		
6.	振袖について		
7.	新日本髪アレンジ ①		
8.	新日本髪アレンジ ②		
9.	補正、長襦袢の着方		
10.	訪問着、留袖の着付け方		
11.	帯の結び方		
12.	小テスト（訪問着）		
13.	作品づくりのテーマ決め、デザイン画作成		
14.	練習		
15.	作品づくり、発表・写真撮り 他		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
課題への取り組み方	小テスト		
60%	40%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・必要なものを準備しておく。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
美容技術理論 2		公益社団法人 日本理容美容教育センター	
美容実習 2		公益社団法人 日本理容美容教育センター	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
・着物及びブライダル誌 他			
そ の 他（受講生への要望等）			
・筆記用具、裁縫道具を準備して下さい。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡をします。	講義終了後の質問等対応可。		

授 業 科 目 名	トータルエステ		
担 当 者 名	木村 祐紀子		
科 目 コ ー ド	2130042	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	必修 美容師必修
授業の概要と方法	<p>エステティックとは何か!? 接客・カウンセリングから始まり、実際のサロンワーク同様に行い、心身の健康と美しさを維持・回復・増進させる等、目的や必要性を理解させる。化学的事実と合理的思考に裏付けられたエステティック技術の重要性を認識させ、技術において用いられる主な薬剤や機器の基本的使用方法や使用上の注意を学ぶ。</p> <p>「美容技術理論Ⅱ」の教科書やDVDに沿って、実習を中心に授業を行う。</p>		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フェイシャルエステ、香りや食育等の効能、効果の知識を学び、内面からの美しさの必要性を学ぶ。</li> <li>・トータル美容の知識と技術の向上を目指す。</li> </ul>		
授 業 計 画			
1.	授業準備、説明		
2.	クレンジング、ふき取り（ウイッグ使用）		
3.	オイルマッサージ（ウイッグ使用）		
4.	2～3、タオル操作（ウイッグ使用）		
5.	2～3、タオル操作（相モデル）		
6.	エステ機器操作説明		
7.	エステ機器操作（相モデル）		
8.	フェイシャル（相モデル）		
9.	フェイシャル～デコルテ（相モデル）		
10.	カウンセリング、フットマッサージ（相モデル）		
11.	エステサロンロールプレイング（ボディケア）		
12.	エステサロンロールプレイング（タイプ別スキンケア）		
13.	ワックス脱毛		
14.	フェイシャル～デコルテ（小テスト）		
15.	エステサロンロールプレイング（食育の効果など）、まとめ		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
課題への取り組み方		小テスト	
60%		40%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・授業を参考に、毎日の生活習慣を観察し、見直すべきところは改善する。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
美容技術理論 2		公益社団法人 日本理容美容教育センター	
美容実習 2		公益社団法人 日本理容美容教育センター	
知識と例題		公益社団法人 日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等			
・授業の進度に応じて、適宜紹介をしていきます。（図書館蔵書の専門書等）			
そ の 他（受講生への要望等）			
・エステティシャンとしての清潔感あるきちんとした身なりで取り組んで下さい。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
講義開始後に改めて連絡をします。		講義終了後の質問等対応可。	

授 業 科 目 名	美容福祉		
担 当 者 名	赤崎 知美		
科 目 コ ー ド	2130043	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	美容師必修
授業の概要と方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の福祉の現状について知る。</li> <li>・介護を受ける高齢者、障害者についての知識と車椅子の福祉機器の使用方法などの介護技術を習得し、様々な方々に対応出来る</li> <li>・美容の施術を行えるようにする。</li> </ul>		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・超高齢者社会の現状を理解し、美容の施術を受ける要介護状態の高齢者、障害者の方々の状態を把握し、その方が満足し安全で安楽な美容の施術が提供できるように学ぶ。</li> </ul>		
授 業 計 画			
1.	福祉とは		
2.	高齢者・障害者とは何か		
3.	認知症サポーター養成講座・・・認知症について		
4.	高齢者・障害者を知る・・・疑似体験		
5.	高齢者・障害者への介助・・・ベッド上での移動・杖歩行(移動の介助の基礎と実際)		
6.	高齢者・障害者への介助・・・車椅子の移動(移動の介助の基礎と実際)		
7.	シャンプー台(ケリーパッド)作り		
8.	シャンプー台(ケリーパッド)を使用したベッド上のシャンプー		
9.	高齢者の病気 緊急時の対応		
10.	コミュニケーションの基礎		
11.	コミュニケーションの実際・・・生きた時代を知る		
12.	生きがい デイサービス		
13.	高齢者・障害者へのメイク・・・基礎		
14.	高齢者・障害者へのメイク・・・ポイントメイク		
15.	総まとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
授業への取組み姿勢	レポート		
50%	50%		
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者・障害者の現状について知識を得ておく。</li> <li>・地域の高齢者や障害者の施設に興味を持ち調べる。</li> </ul>			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
使用しない			
参考書又は参考資料等			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・財団法人テクノエイド協会 資料配布、その他資料も適宜配布。</li> </ul>			
そ の 他 (受講生への要望等)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の住む地域の高齢者・障害者など介護をうける人たちへの関心を持つ。</li> </ul>			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
akasaki@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名	ヘアファッション画		
担 当 者 名	武田 まち子		
科 目 コ ー ド	2130034	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	必修 美容師必修
授業の概要と方法	美容師は技術的トレーニングが大切であるが、ソフトであるデザイン表現も重要である。本授業では基本である一本のきれいな線とプロポーションを重要な事と考え、各自のテーマや目的にそって、三種類の表現技法を学ぶ。		
授業の到達目標	<p>①ヘアースタイルをイメージすることは容易であるが、そのイメージを形にすることは難しい。イメージしたヘアーデザインを他人に伝えるための、デザイン画の表現技法を習得する。</p> <p>②繰り返し練習することで創造力や感性を高め、自分らしい表現が出来る。</p> <p>③目的に応じて省略的・写實的・簡略的な表現が出来る。</p>		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション …ヘアーデザイン画について・ウォーミングアップ		
2.	省略的な描き方①顔のパーツ…目・眉・鼻・口		
3.	省略的な描き方②ヘアー		
4.	省略的な描き方③正面の顔のプロポーション…ヘアー		
5.	省略的な描き方④斜の顔のプロポーション …ヘアー		
6.	省略的な描き方⑤横顔のプロポーション …ヘアー		
7.	ヘアーデザイン画（課題作品①）…写真を見て省略的に描く		
8.	写實的な描き方①顔のパーツ …目・眉・鼻・口		
9.	写實的な描き方②正面の顔のプロポーション…ヘアー		
10.	寫實的な描き方③斜の顔のプロポーション …ヘアー		
11.	寫實的な描き方④横顔のプロポーション …ヘアー		
12.	ヘアーデザイン画（課題作品②）…写真を見て寫實的に描く		
13.	簡略的な描き方…顔・ヘアー		
14.	ヘアーデザイン画（自由課題…各自のテーマに沿って表現する）①		
15.	ヘアーデザイン画（自由課題…各自のテーマに沿って表現する）② ※ まとめ		
成績評価の方法	〔評価項目と割合〕		
作品評価	受講姿勢（課題提出状況を含む）		
50%	50%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・科目の性格上、事前学習や事後学習（次回に向けての事前学習でもある）が必要である。特に自分が不得手な個所の練習などは必須である。</li> <li>・事後学習については次回の授業時に提出することがある。</li> </ul>			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
HAIR DRAWING（ヘアードローイング）	小林 克美	（アトリエ・BOW）	
参考書又は参考資料等			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な時に資料配布や紹介をする。</li> </ul>			
そ の 他（受講生への要望等）			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘアーデザインやメイクだけでなく様々な表現に興味を持ち、イメージを膨らませ創造力を豊かにすることが大切です。また絵を描くことが苦手でもとにかく描くことです。描くことから自分らしい表現が生まれてきます。</li> <li>・必要な用具などは別途連絡します。</li> </ul>			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
takeda@higashikyusyu.ac.jp	講義開始前 10 分間は小倉北区キャンパス 2 号館 4 階非常勤講師室にて質問等対応可。		



授 業 科 目 名	クラフトデザイン		
担 当 者 名	井上 登美子		
科 目 コ ー ド	2130003	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	前期（集中講義）
単 位 数	1	履 修 方 法	必修 美容師必修
授業の概要と方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会にあふれている大量生産、消費に対して、ハンドメイドであることの意味や価値を再認識し、課題制作を通して想像力や技術力を養うことに主眼をおきます。</li> <li>・オリジナルマテリアル制作から開始し、ヘア・コサージュを中心にした、オリジナル作品への展開を試みます。更に、実物装着によるプレゼンテーションと共に、イメージフォトによる作品発表へと発展させます。</li> </ul>		
授業の到達目標	<b>オリジナル課題（主として）ヘア・コサージュの制作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン展開、マテリアルの選択や取り扱いが適切である。</li> <li>・作品制作を通し、装飾技術の向上が認められる。</li> </ul> <b>トータルスタイリング計画 プレゼンテーション計画</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品装着によるイメージフォトの作成。</li> <li>・表現能力の向上が認められる。</li> </ul>		
<b>授 業 計 画</b>			
1.	オリエンテーション	授業計画の説明、テーマ及びコンセプトの設定	
2.	デザイン設定	イメージスケッチ、マテリアル制作の計画・準備	
3.	マテリアル制作	オリジナルマテリアルの制作（試作）	
4.	〃	作品への展開 使用量の計算	
5.	実物制作	作品への展開 使用量の計算	
6.	〃	造 形 パーツカット	
7.	〃	造 形 ワイヤリング 等	
8.	〃	造 形 パーツの組み立て① 花芯 等	
9.	〃	造 形 パーツの組み立て② リーフ 等	
10.	〃	造 形 コサージュまとめ	
11.	〃	造 形 デコレーション	
12.	課題レポート作成	課題レポート（デザインシート）の作成	
13.	プレゼンテーション計画		
14.	プレゼンテーション（1）	実物装着によるプレゼンテーション	
15.	プレゼンテーション（2）	イメージフォトによるプレゼンテーション	
<b>成績評価の方法</b> 〔評価項目と割合〕			
課題作品への取り組み方（制作過程も重視する）		プレゼンテーションの方法	課題レポート
40%		30%	30%
<b>授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用素材含め、課題作品のイメージにそった資料の検索。</li> <li>・スケジュール（制作・プレゼン）の自己設定、実施</li> </ul>			
<b>使用テキスト</b>			
書籍名	著者	出版社	
使用しない			
<b>参考書又は参考資料等</b>			
○ガースジョンソン「クリエイティブ・リユースのアイデア 1000」（グラフィック社）			
○Norma Shephard「1,000Hats」（Schiffer Publishing）			
<b>そ の 他（受講生への要望等）</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期終了時に、3日間の集中講義を実施。（4コマ×3日間）</li> <li>・事前講義として、前期中に3コマ実施。（1コマ×3回） 合計15回の講義を実施</li> </ul>			
<b>担当教員の連絡先等</b>			
担当教員 E-mail	その他		
inoue@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名	フォトアート		
担 当 者 名	社川 武弘		
科 目 コ ー ド	2130044	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	必修
授業の概要と方法	今日では、写真表現自体がフォトアートとして一般化している。各々が作成した美容作品等のスチール撮影を通して基本的知識と写真の特性、作品意図追究し実践する。		
授業の到達目標	・撮る写真から作る写真、行為としての写真へ、表現の可能性を広げる。		
授 業 計 画			
1.	フィルムカメラについて		
2.	デジタルカメラについて		
3.	写真が写る仕組み		
4.	明るく撮る、暗く撮る		
5.	ISO感度		
6.	光の仕組み構図について		
7.	色の仕組み		
8.	構図について		
9.	被写界深度		
10.	動感表現		
11.	形の表現		
12.	作品評価（学内外撮影可）		
13.	作品評価（写真印刷等）		
14.	作品評価（作品批評・指導）		
15.	まとめ		
成績評価の方法　〔評価項目と割合〕			
完成度（作品課題、表現力、技術力等を含む）		授業への取組み姿勢	
80%		20%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・各回の講義にて、事後学習等について連絡をします。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
写真の撮り方ハンドブック	河野鉄平	誠文堂新光社	
参考書又は参考資料等			
・必要時資料配布			
そ の 他（受講生への要望等）			
・私語厳禁、道具一式慎重取扱い。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
shagawa@hcc.ac.jp			